

1 単元名 「おかしのかずをかぞえよう ～みんなで作ろうおかしの家～」

2 単元設定の理由

本学級の児童3名は、学級の中では互いによく話しかけ、かかわり合いを楽しむ姿がよく見られる。学習に対してはどの児童も意欲的であり、操作的な活動を取り入れた学習の場合、より集中して取り組むことができる。

これまでの算数の学習では、魚つりやボーリング遊びを通して、「あわせた数」や「のこりの数」を求める学習を行ってきた。どの児童も意欲的に数え、答えを求めることができるが、具体物や自分の指を使って1から順に数えている児童、また1桁同士の繰り上がりのあるたし算ができ、20までの数においては「10といくつ」という見方で数をとらえられているものの、数えている途中でわからなくなると再び最初から数え直している児童の姿がみられる。日常生活の中で様々な物を数える場面においても同様である。

そこで、10までの数を合成・分解する力や、大きな数においては数のまとまりを作って数えるという考え方が身につくようにしたいと考える。また、一つずつ数えるだけでなく2とびの数え方も学習し、より素早く数を数える力を身につけ、生活の中でも生かせるようにしたいと考える。

本単元では、一人一人の目標は異なるが、友だちを意識し、互いに学習意欲を高められるように、児童全員が同じ題材を扱えるような学習にしたい。そこで、それぞれの児童の実態に合わせた内容の紙芝居「おかしやさんからのおねがい」という話を作り、毎時間の導入時に読み聞かせを行う。活動内容は児童によって異なるが、「おかしやさんを助けよう」という同じ気持ちをもって取り組めるのではないかと考える。

一次では、紙粘土やセロハン等で作った9種類のおかしを使い、数を数える学習を行う。A児は、6～10までの数の合成分解を繰り返し行う。例えば、おかしが合わせて6個になるような組み合わせを考えたり、6個のおかしを2人で分け合うといくつといくつになるかを考えたりする活動である。10までの数の合成分解が確かなものになることをねらいとしている。B児・C児は、様々な数で用意されているおかしの数(2桁)を数える活動を行う。数が大きいときは、10のまとまりを作って数える方法が便利であることに気づき、「10がいくつと、ばらがいくつ」という見方で数をとらえられるようになることをねらいとしている。また、2とびの数え方も学習し、より速く数を数えられるようにする。さらにC児は、数えたおかしの模型を操作しながら、(2桁+1桁)の繰り上がりのないたし算をできるようにしていきたい。

二次では、「おかしの家をつくろう」という場面を設定する。一次に引き続き、ストーリー性をもたせることで、児童が楽しみながら学習を進めていけるようにしたい。一次と同様に数を数える学習内容となるが、具体物を数えて数字に表していた活動から、二次では数字を見て具体物をそろえるという活動になる。家を作るために必要なおかしの数え、みんなで一つの家を作るという共通の目的を持ちながら取り組めるようにする。

これらの活動を通して、数字を見てどれくらいの量であるかイメージできる力を身につけ、生活の中で数を数える時に生かせるようにしていきたいと考える。

### 3 部会研究テーマとの関連

## 楽しい授業を作るための教材・教具の工夫

### <児童の興味関心をひきつけるための導入の工夫>

本学級の児童は読み聞かせになると、集中して聞く姿が普段から見られる。そこで、本単元でも毎時間の導入時に紙芝居の読み聞かせを行い、興味関心をもてるようにする。紙芝居「おかしやさんからのお願い」は、それぞれの児童の実態に合わせた課題等が書かれた内容にし、児童が学習の目的をつかみ、意欲的に取り組めるようにしたいと考える。

### <楽しい授業を作るための教材・教具の工夫>

本単元では、9種類のおかしの数を数える学習を行う。そのため、紙芝居の中に出てくるおかしやさんからの一つ目のお願いを「おかし作りを手伝ってほしい」という内容にし、学習で使うおかしは児童と一緒に図工の時間を利用して作る。自分たちで作ったものを使うことで、より学習に対する意欲が高まるのではないかと考える。また、二次でのおかしやさんからのお願いを「おかしの家作りを手伝ってほしい」という内容にする。正しい個数のおかしを持ってくることができたら、家の形をした段ボールにおかしの絵を貼りつけるという活動を通して、児童が楽しみながら取り組めるようにしたい。

### <一人一人に合わせた課題の設定及び、達成するための教材・教具の工夫>

本学級の児童には実態差があるため、それぞれが達成感を味わえるように実態に合わせた学習課題を設定し、それぞれの課題に合わせた教材・教具を以下のように用意した。

#### ①A児への手立て

10の補数が理解できていないA児には、10個入りのたまごパックを使用する。たまごパックの中には、いくつかおかしが入っており、あといくつ持ってくれば全部で10になるかを視覚的に理解できるようにするための教具である。



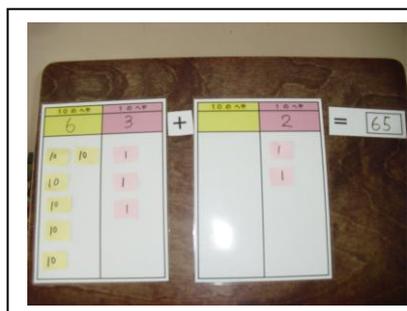
#### ②B児への手立て

「何十何」という数を、おかしの模型を使って表せるようになることが目標のB児には、右写真のボードを用意する。具体物が置けるよう枠を大きくしたり、「何十何」という数字を書くことができる欄を作ったりする。具体物の操作を繰り返し行い、十の位に3という数字がある場合は10のまとまりが3つであるということを、具体物がなくてもイメージできるようにするための教具である。



#### ③C児への手立て

様々な数のたし算ができるようになることが目標のC児には、右写真のボードを用意する。二次では、操作するものを具体物から数字カード(1, 10)に変えたり、一の位と十の位を色分けしたりすることにより、数字だけの式になっても、どの数字を足せばよいか理解できるようにしたい。



#### 4 単元の目標

- 数を数える学習に、意欲的に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- 具体物の操作活動を通して、初歩的な数の概念を理解したり、計算をしたりすることができる。  
(数学的な考え方)
- 2とびで具体物を数えることができる。(技能)

#### 5 指導計画(7時間扱い)

- 第一次 おかしの数を数えよう・・・5時間
- 第二次 おかしの家を作ろう・・・・・・3時間(本時7/8)

		A 児の主な学習活動	B 児の学習活動	C 児の学習活動
第 一 次		おかしの数を数えよう		
	1	・6の数を合成分解する。	・10のまとまりを作って、20や30などの50までの数を数える。	・具体物を使って、(何十)+(何)の答えを求める。
	2	・7の数を合成分解する。	・2とびで10のまとまりを作って、20や30などの90までの数を数える。	
	3	・8の数を合成分解する。	・2とびで10のまとまりを作り、28や37などの50までの数を数える。	・具体物を使って、(何十何)+(何)の答えを求める。
	4	・9の数を合成分解する。	・2とびで10のまとまりを作り、53や78などの90までの数を数える。	
	5	・10の数を合成分解する。	・まとめ (いろいろな数を数える)	・まとめ (いろいろな数の計算をする)
第 二 次	1	おかしの家をつくらう		
	2	・10個セットにするための不足分を考えてもってくる。(10の補数)	・数字と同じ数(2桁)のおかしをもってくる。	・数字カード(1, 10)を使って、(何十何)+(何)の答えを求め、必要な数のおかしをもってくる。
	3			

## 6 本単元における児童の実態及び個別目標

児童名	単元に関する実態	単元の個別目標
A児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物を使わずに5までの合成分解ができる。</li> <li>・繰り上がりのない1桁同士の加法、減法の答えを具体物や自分の指を使いながら求めることができるが、1から順に数えていることが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物を使わずに、6～10までの合成分解ができる。</li> <li>・10の補数がわかる。</li> </ul>
B児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20までの数を、「10といくつ」という見方でとらえることができる。</li> <li>・日常生活の物を数える場面では、1から順に数え、まとまりを作って数える考え方が身につけていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きい数を10ずつまとめて数えることができる。</li> <li>・100までの数を「10がいくつと、1がいくつ」という見方でとらえることができる。</li> <li>・2とびで具体物を数えることができる。</li> </ul>
C児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1桁同士の繰り上がりのある計算ができる。</li> <li>・100までの数において、10のまとまりを作り、「10がいくつと、1がいくつ」という見方で数をとらえることができるが、日常生活で数える場面では一つずつ数えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2とびで具体物を数えることができる。</li> <li>・(何十)+(何)、(何十何)+(何)などのたし算の計算ができる。</li> </ul>

## 7 本時の指導

### (1) 全体目標

- おかしの家を作るために、意欲的におかしの数を数えることができる。(関心・意欲・態度)
- それぞれの課題に沿って、問題を解くことができる。(数学的な考え方)
- おかしの数について発表することができる。(知識・理解)

### (2) 個別目標

児童	本時の個別目標	個別の手立て
A児	<ul style="list-style-type: none"> <li>○10個セットのおかしを進んでつくることができる。</li> <li>○10の補数を考えたり発表したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おかしの家を用意し、どの部分のおかしを持ってくればよいか視覚的に理解できるように色分けしておく(黄色)。</li> <li>・10個入りのたまごパックにもとの数のおかしを入れておき、その上から「10」と書いたカードを貼る。補数がわからない場合は、カードをめくりあといくつで10になるかを確認できるようにする。</li> <li>・発表の時に使えるよう、穴埋め式のワークシートを用意する。</li> </ul>

B 児	<p>○意欲的に数を数えることができる。</p> <p>○二桁の数字と同じ数のおかしをもつてくることができる。</p> <p>○「何十何」個のおかしの数について、発表することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おかしの家を用意し、どの部分のおかしを持ってくればよいか視覚的に理解できるように色分けしておく(ピンク)。</li> <li>・十の位を「10個セットの部屋」、一の位を「ばらの部屋」としたり、「何十何」の数字の書き方を確認したりできるボードを活用する。</li> <li>・発表の仕方がわかるような穴埋め式のワークシートを用意する。緊張して話せなくなってしまった場合は、黒板に貼れる数字カードを使って伝えられるようにする。</li> </ul>
C 児	<p>○意欲的に数を数えることができる。</p> <p>○(何十何)+(何)のたし算の計算ができる。</p> <p>○計算の手順を自分の言葉で発表することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おかしの家を用意し、どの部分のおかしを持ってくればよいか視覚的に理解できるように色分けしておく(水色)。</li> <li>・具体物を使って確認したり、一の位と十の位を色分けし、数字だけの式になった場合に、どことどこを足せばよいか理解できるようにする。</li> <li>・発表で困っている時は、「10のへや」や「1のへや」に注目するよう声をかけ、計算の手順を自分の言葉で伝えられるようにする。</li> </ul>

(3) 本時の展開 (7/8)

学習活動	□全体支援、○個別の支援、◆個別の評価			教材・教具
	A 児	B 児	C 児	
<p>1 紙芝居の読み聞かせを聞き、本時の学習内容を確認する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">           □学習に興味関心をもったり、それぞれの課題をつかんだりできるよう、紙芝居の読み聞かせを行う。         </div>			<p>紙芝居 おかしの家</p>
<p>2 各自の課題に取り組む。 (A児) 10個セットにするための不足分を考えてもつてくる。</p>	<p>○10の補数を視覚的なイメージと結びつけて考えられるよう、10個入りのたまごパックの教具を用いる。</p>	<p>○10のまとまりがいくつとばらがいくつか確認できるボードを活用する。</p> <p>○「何十何」の読み方が身につくよう、毎回数字を読ませる。</p>	<p>○数字カードを使ったり、一の位と十の位を色分けしたりし、どの数字を足せばよいか理解できるようにする。</p>	<p>おかしの模型 (A児用) たまごパック</p>

<p>(B児) 数字と同じ数のおかしをもってくる。</p> <p>(C児) (何十何)+(何)のたし算の計算から、必要なおかしの数を求める。</p>				<p>(B児用) おかしの数確認ボード</p> <p>(C児用) 計算ボード 数字カード <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</span>、<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">10</span></p>
<p>3 おかしの個数を教師と確認する。</p>	<p>□答えが合っていたら、もってきたおかしと同じ個数の絵が描かれている絵カードを渡し、家に貼れるようにする。</p>			<p>おかしの絵カード</p>
<p>4 発表カードに書き込む。</p> <p>※2～4の活動を繰り返す</p>	<p>◆10個セットのおかしを進んでつくることのできた。</p> <p>○発表の時に使えるよう、穴埋め式のカードを用意する。</p>	<p>◆意欲的におかしの数を数えることができた。</p> <p>◆2桁の数字と同じ数のおかしを持ってこることができた。</p> <p>○発表の時に使えるよう、穴埋め式のカードを用意する。</p>	<p>◆意欲的におかしの数を数えることができた。</p> <p>◆(何十何)+(何)のたし算の計算ができた。</p>	<p>発表カード</p>
<p>5 友達の前で、持ってきたおかしの数について発表する。</p>	<p>○○(ドア等)には、□個必要でした。□個しかなかったため、□個もってきました。</p> <p>◆10の補数について、発表することができた。</p>	<p>○○(壁等)には□個必要だったので、10のまとまりを□個と、ばらを□個もってきました。</p> <p>○緊張から話すことができなかった場合は、穴埋め箇所に貼れるような数字カードを使って、自分の考えを伝えられるようになる。</p>	<p>○「10のへや」や「1のへや」に注目するよう声をかけ、計算の手順を自分の言葉で伝えられるようにする。</p> <p>◆計算の手順を自分の言葉で発表できた。</p>	

<p>6 本時のまとめ をする。</p>		<p>◆「何十何」個のおかしの数について、発表することができた。</p>		
<p>□課題ができたことやがんばったことを賞賛し、次時の学習への意欲につながるようにする。</p>				

(4) 配置図

